関空島 WEATHER REPORT

10月号
2022年

ご利用の前に
関空島（かんくうじま） WEATHER REPORT（ウェザーレポート）の内容には、航空気象で利用する用語や、観測で使用する機器及びその設置場所等の略語がでてきます。これらの解説を巻末に掲載していますので適宜ご利用ください。

関空島の9月の気象

天気概況

9月前半は、前線や台風第11号の影響で雨となった日がありました。後半は、高気圧に覆われて晴れた日がありましたが、台風第14号の影響で荒天となった日がありました。

上旬：前線や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を観測する日がありました。また台風第11号や前線の影響で雨となった日がありました。

中旬：高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、台風第14号の影響で雨や風の強い日がありました。

下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多くありましたが、上空の寒気や気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となり雷を観測する日がありました。

特徴的な日

1日は停滞する前線の影響で大気の状態が不安定となり、雷雨を観測しました。VISが900mまで悪化し、CIGが1300ftまで低下しました。

6日から7日は台風第11号の影響で最大風速30ktの南の風、最大瞬間風速42ktの南南東の風を観測し、VISが1900mまで悪化し、CIGが300mまで低下しました。

8日から9日は気圧の谷や千島の東にある高気圧の縁辺を回って流入する湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を観測しました。また、雨が降り、VISが2300mまで悪化し、CIGが200mまで低下しました。

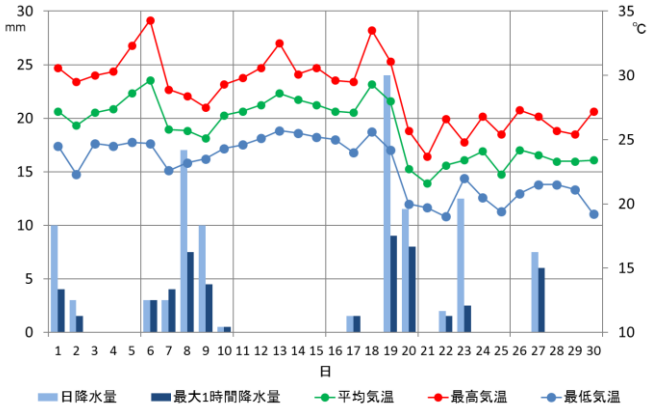
19日から20日は台風第14号の影響で最大風速37ktの南南西の風、最大瞬間風速49ktの南南西の風を観測し、VISが2100mまで悪化し、CIGが800ftまで低下しました。

23日は台風第15号の影響で雨が降り、CIGが200mまで低下しました。

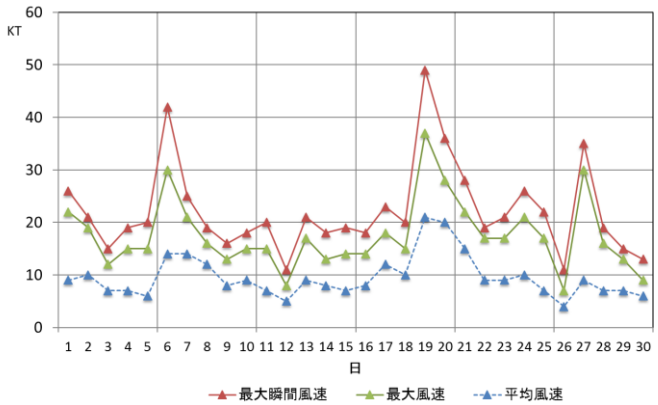
27日は上空の寒気や気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となり、雷雨を観測し、VISが2000mまで悪化しました。

《気温》月平均気温は25.9℃（平年25.2℃、9月の高い方から5位を更新）でした。日最高気温は、6日が最も高く34.3℃（9月の高い方から7位を更新）を観測しました。日最低気温は、22日が最も低く19.0℃を観測しました。（第1図）。

《降水量》月降水量は 105.5mm（平年 130.7mm、9 月の少ない方から 10 位を更新）でした。日降水量の最大は 19 日に 24.0mm を観測しました。1 時間降水量の最大は 19 日に 9.0mm を観測しました。10 分間降水量の最大は 19 日に 3.0mm を観測しました（第 1 図）。



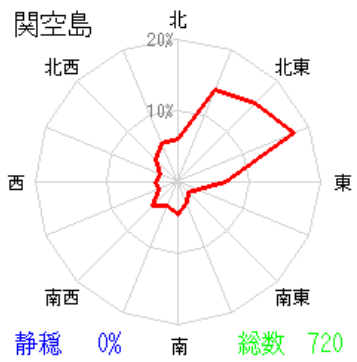
第 1 図　2022 年 9 月の日別気温・降水量



第 2 図　2022 年 9 月の日別風速

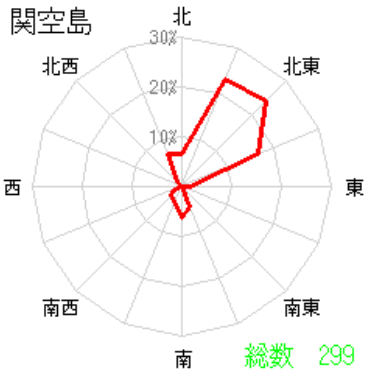
《風》日最大風速が 15kt 以上の日数が 21 日、そのうち 20kt 以上の日数が 8 日でした。日最大風速の最大は 19 日の南南西の風 37kt（9 月の強い方から 9 位を更新）、日最大瞬間風速の最大は 19 日の南南西の風 49kt（9 月の強い方から 6 位を更新）でした（第 2 図）。

〈風配図〉10 分間平均風向風速を 1 時間毎に風向及び風速別で集計し、各方位の頻度を表した図です。月全体では東北東の風が多くなっています（第 3 図）。風速階級別では、5m/s 以上（約 10kt 以上）は北東、10m/s 以上（約 20kt 以上）は南の風を多く観測しています（第 4 図）。



(0m/s 以上)

第 3 図　9 月の風配図



(5m/s 以上)

(10m/s 以上)

第 4 図　9 月の風速階級別風配図

〈極値・順位値の更新〉 9 月の極値と順位値の更新状況を第 1 表に示します。表において、橙色のセルが今月の順位値を更新した記録です。

第 1 表　関空島の 9 月の極値

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
月降水量の少ない方から (mm)	28.5 (2019/9)	46.5 (2014/9)	49.0 (2007/9)	49.5 (2009/9)	70.0 (2005/9)	81.0 (2010/9)	87.5 (2017/9)	88.0 (2006/9)	95.0 (2008/9)	105.5 (2022/9)
日最高気温の高い方から (℃)	35.2 (2010/9/4)	35.0 (2010/9/12)	34.9 (2010/9/6)	34.7 (2007/9/5)	34.5 (2010/9/3)	34.4 (2010/9/5)	34.3 (2022/9/6)	34.3 (2016/9/3)	34.0 (2019/9/7)	33.7 (2010/9/11)
月平均気温の高い方から (℃)	26.9 (2007/9)	26.5 (2010/9)	26.0 (2019/9)	26.0 (2004/9)	25.9 (2022/9)	25.8 (2005/9)	25.8 (2003/9)	25.5 (2016/9)	25.5 (2012/9)	25.3 (2020/9)
日最大風速・風向 (m/s)	46.5 南南西 (2018/9/4)	26 南南西 (2004/9/7)	22.1 南 (2017/9/17)	21.8 北北東 (2016/9/20)	21.7 北西 (2018/9/30)	20.0 北 (2013/9/16)	20 南南西 (2005/9/7)	19.4 北北西 (2012/9/30)	19.0 南南西 (2022/9/19)	18.5 南南西 (2019/9/23)
日最大瞬間風速・風向 (m/s)	58.1 南南西 (2018/9/4)	30.9 南南東 (2017/9/17)	27.8 北西 (2018/9/30)	27.3 北北東 (2016/9/20)	25.7 北 (2013/9/16)	25.2 南南西 (2022/9/19)	24.2 南 (2019/9/23)	24.2 北北西 (2012/9/30)	23.7 南南西 (2020/9/7)	22.1 北東 (2011/9/2)

統計期間：日最大瞬間風速・風向は 2009 年 9 月から、その他は 2003 年 9 月から。

なお、本レポートの文中及び極値表に用いている値は、特に断りがない限りアメダスによる統計処理を行った資料に基づき作成したものです。

事務局からのお知らせ

＜関空島ウェザートレポートについて＞

「関空島ウェザーレポート」についてのご意見・ご要望は、担当（松尾）のメールアドレス s.matsuo@met.kishou.go.jp まで、メールにてお願いします。

発行日：2022 年 10 月 17 日
発行元：関西航空地方気象台
編　集：航空気象懇談会事務局

関空島 WEATHER REPORT で使用する航空気象に関する用語の解説

1　気象観測施設の配置とデータ利用について

気象観測施設は、関空島の A-RWY（3500m）と B-RWY（4000m）周辺に配置した屋外観測装置と、当台気象観測室（航空庁舎ペントハウス）に設置した気象観測報の作成、配信等の処理を行う屋内観測装置で構成する。

屋外観測装置からのデータは屋内観測装置に表示し、METAR-AUTO 報として 10 分毎に自動配信するとともに、屋上で行う目視による観測とあわせて航空観測気象報(METAR 報、SPECI 報)で配信する。

また、日本時間の 23 時 00 分～翌日 05 時 59 分の間は、全要素とも自動観測・自動判別結果を用いた METAR/SPECI 報（以下「自動 METAR/SPECI 報」という。）を通報する。自動 METAR/SPECI 報で通報する視程や雲、現在天気は目視観測とは異なる特性・特徴を持っている。

航空観測気象報で通報する風は「06L」の観測値である。障害等で「06L」が使用できない時は「06R、24R、24L」の順に代用して通報し、RMK に使用した風向風速計名を記載する。（例：WIND BY EQPT/06R）

2　本文中で使用する語句の定義等

VIS：全周を見渡して半分またはそれ以上の範囲で共通した視程（卓越視程）を（m）で表す。なお、自動通報時間帯については、RWY06L の滑走路視距離観測装置で自動観測した値である。

CIG：雲量が 5/8 以上の雲層のうち、一番低い雲層の雲底の高さを（ft）で表す。

RVR：滑走路視距離観測装置で観測した滑走路視距離を（m）で表す。

風：RWY06L に設置した観測装置の値（関西国際空港の代表風）を、風向を真方位（°）で風速を（kt）で表す。

風配図は、RWY 06L の、正時から 1 時間毎の 10 分間平均風を、月毎の風向別に百分率で表す。

Calm（静穏）は、10 分間平均風速の値が 0.4kt（0.2m/s）以下の場合をいう。

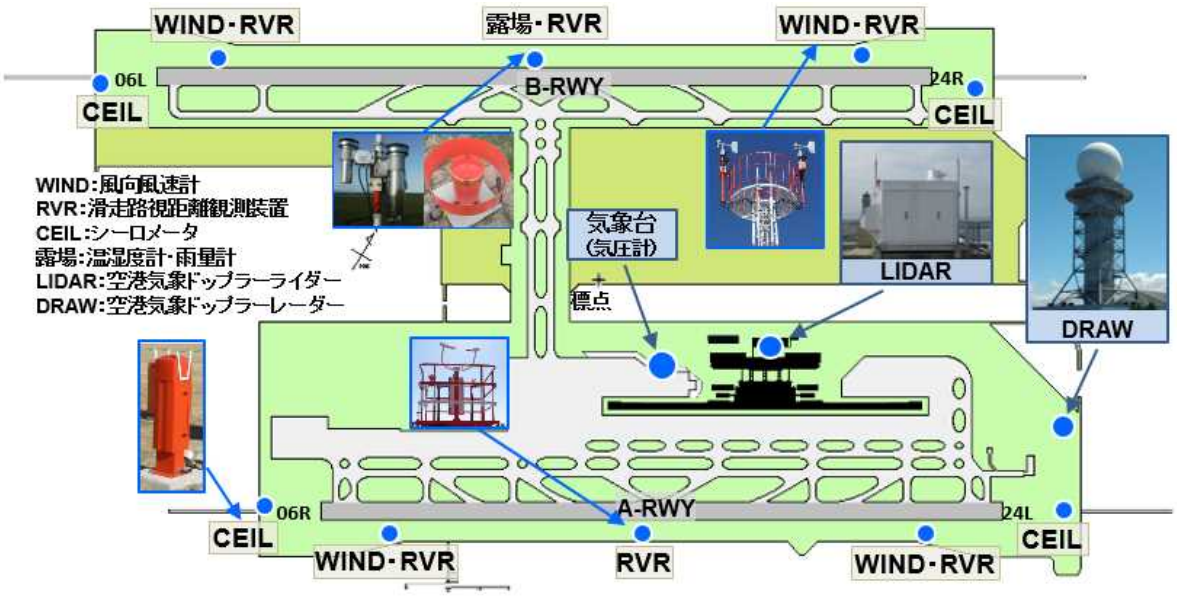
ガストは、平均風速を 10kt 以上上回る最大瞬間風速があった場合に報じられる。

ウィンドシアー：鉛直方向又は水平方向の風速や風向の差をいう。ウィンドシアーのうち、観測された高度が 1600ft 以下（もしくは 1600ftをまたぐ高度）の場合は低層ウィンドシアーとする。

平年値：アメダスの関空島地域気象観測所として算出した平年値を使用している。

関空島の統計期間は、2003-2020 年

（ただし、日最大 10 分間降水量及び日最大瞬間風速は 2009 年から）。



関空島内の気象観測機器配置状況

2021.9.1　関空島 Weather Report 編集部